

九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 TSLP 遺伝子多型とアトピー性皮膚炎との関連

背景：ゲノムワイド関連解析で *TSLP* 遺伝子多型と喘息との関連が指摘されています。過去に *TSLP* 遺伝子多型とアトピー性皮膚炎との関連は調べた論文は一つだけ存在します。

方法：九州・沖縄母子保健研究に参加し、遺伝子解析研究に同意した 1492 名の母親の内、International Study of Asthma and Allergies in Childhood (ISAAC) に基づき、過去 1 年アトピー性皮膚炎と定義された 188 名を症例群としました。対照群として、対照群として、ISAAC で過去 1 年アトピー性皮膚炎或いはアレルギー性鼻結膜炎がなく、これまで医師に喘息、アトピー性皮膚炎或いはアレルギー性鼻炎と診断されておらず、European Community Respiratory Health Survey に基づき、過去 1 年喘息のない 565 名を選びました。TaqMan 法で rs1837253、rs3806933、rs2289276 の遺伝子多型を調べました。年齢と喫煙を交絡因子として補正しました。

結果：rs1837253 の TT 遺伝子型を基準としまして、Dominant モデルで TC+CC 遺伝子型ではアトピー性皮膚炎と有意な正の関連を認め、補正オッズ比は 1.41 (95% CI: 1.004–1.99) でした。rs3806933 及び rs2289276 はアトピー性皮膚炎と関連はありませんでした。これらの SNPs で 5 のハプロタイプが同定されましたが、いずれもアトピー性皮膚炎と関連はありませんでした。rs1837253 と喫煙との間に交互作用はありませんでした。

SNP	遺伝子型	n (%)		補正オッズ比	
		症例群 (N = 188)	対照群 (N = 565)		
rs1837253	Co-dominant	TT	68 (36.2)	250 (44.3)	1.00
		TC	94 (50.0)	249 (44.1)	1.41 (0.98–2.01)
		CC	26 (13.8)	66 (11.7)	1.44 (0.85–2.45)
	Dominant				1.41 (1.004–1.99)

結論：本研究は世界で初めて rs1837253 の (TC+CC) 遺伝子型とアトピー性皮膚炎との有意な正の関連を報告しました。

出典：Miyake Y, Hitsumoto S, Tanaka K, Arakawa M. Association between *TSLP* polymorphisms and eczema in Japanese women: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. *Inflammation*. 2015; 38: 1663-1668.